

優しさと強さが響きあう福祉のまち としまNICEプラン

豊島区民地域福祉活動計画

2018 年度～ 2023 年度



平成30年3月

社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会

優しさと強さが響きあう福祉のまち としまNICEプラン

優しさと強さが響きあう福祉のまちとは、区民一人ひとりが主役となり誰もが安心して住み続けられるまちづくりをめざして、手を携えて一歩を踏み出す。その力強い一歩が豊島区のまち中に響きわたるまちの姿をイメージしています。

NICE とは、

N ormalization	ノーマライゼーション 共生
I ndependence	インディペンデンス 自立 支えあう
C are	ケア 気配り 見守り
E mpowerment	エンパワメント 力を引き出す

の頭文字を組み合わせているんじやよ。



豊島区民社協キャラクター
ふくじい

ふくじいのプロフィール

誕生日	8月28日(豊島区民社協創立日と同じ日)
年齢	気持ちは20代の元気じいさん
好物	さくら餅
趣味	ボランティア活動
日課	散歩を兼ねたパトロール
好きなことば	なにごとも全力投球
チャームポイント	ふっさふさのヒゲ

ふくじいのイメージ

歳を重ねても、明るい未来を予感させる頼もしい高齢者像をイメージしています。普段はどこにでもいる普通のおじいさん。困っている人を見つけると、レンジャー姿で助けに向かう正義の味方です。

愛称「ふくじい」の由来

「福」と「寿」を招く幸せいっぱいのシルバーヒーローを意味しています。



優しさと強さが響きあう福祉のまち としまNICEプラン

豊島区民地域福祉活動計画

2018 年度～ 2023 年度

平成 30 年（ 2018 年） 3 月

発 行 社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会

〒170-0013 豊島区東池袋 1-39-2
豊島区役所東池袋分庁舎 3,4 階

TEL 03-3981-2930

FAX 03-5954-7105

制作協力 Office TAGO

はじめに



豊島区民社会福祉協議会
会長 田中 幸一郎

早いもので、私が昨年の7月、豊島区民社会福祉協議会の会長に就任して半年以上が経過いたしました。私自身、これまでの甚だ短い会長としての経験ではありますが、改めてこの豊島区の地域で「誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせる福祉のまちづくり」の重要性を痛感しています。

また、今後、日本の社会は、これまで以上の猛スピードで、超高齢化社会に突入してまいります。

そのため、国もこうした超高齢化社会における地域福祉の維持方策として、「地域共生型社会の実現」を提唱しております。これまでの分野ごとの縦割りの福祉政策を大きく転換し、地域包括支援センターを全ての福祉サービスのワンストップ窓口として活用し、地域住民や関係団体なども主体的に参画して、地域の課題を「我が事・丸ごと」の問題として、互助、共助の活動を行うというものです。

しかしながら、我が豊島区においては、こうした支援体制を先取りし、既に全国に先駆け高齢者総合相談センターの全8圏域にコミュニティソーシャルワーカーを配置する体制を整え、様々な福祉活動の支援を行っております。

また、区民ひろばなどを拠点とした高齢者のサロンや見守り活動など、120を超える団体の地域福祉活動も展開されております。

今回、改正を行った地域福祉活動計画におきましても、こうした豊島区版の「地域共生社会」を実現するため、「コミュニティソーシャルワークの推進と地域福祉活動のネットワークづくり」を明示いたしましたし、独自に地域活動を行っている団体のヒアリング結果を踏まえて、増加を続ける外国籍の人々との「多文化共生の地域づくり」の取り組みや、新たな動きとなりつつある「区内企業の地域貢献活動との連携」の視点も追加いたしました。

この計画を取りまとめるにあたり、熱心にご議論をいただいた、田中英樹先生をはじめとする「地域福祉活動計画推進委員会」の皆様、そして区民ミーティングなどにご参加いただきご意見を寄せられた区民の皆様には、衷心よりお礼を申し上げます。

豊島区民社協も区と連携して、この「地域福祉活動計画」に基づき、豊島区版「地域共生社会」の実現に向け、職員一丸となって全力で取り組んでまいります。

(平成30年3月)

あいさつ



豊島区民社会福祉協議会
地域福祉活動計画推進委員会
委員長 田中 英樹

「福祉が響きあうまち としまNICEプラン」(豊島区民地域福祉活動計画(改訂版))平成27~31年度)を平成27年3月に策定し、早3年が経過しました。今回、「としまNICEプラン」を区民の皆さんとともに再改定しました。豊島区民社会福祉協議会にとって3回目の計画づくりとなります。みなさんのお手元に、新しいプランが届けられることをとてもうれしく思います。

今回の再改定した「としまNICEプラン」は、「優しさと強さが響きあう福祉のまち」という基本理念を継承しています。同時に、国が新たに提唱しました「地域共生社会」の実現という未来図を豊島区の特徴に即して創造的に盛り込みました。

豊島区においては、すでに「としまNICEプラン」で国の動向を先取りし、高齢者総合相談センターの全8圏域にコミュニティソーシャルワーカーの複数配置を実現しました。今後は豊島区版「地域共生社会」の実現に向け、「我が事・丸ごと」の地域包括ケアシステムを推進し、「相談支援包括化推進員(仮称)」を行政部門に位置づけ設置するとともに、コミュニティソーシャルワーカーも区内12地域に配置増員する方針を打ち出しています。

昨年、11月には豊島区版「地域共生社会」への理解を深めるため、南大塚ホールでフォーラム「福祉はまちづくり～地域共生社会の実現に向けて～」も開催し、200名以上の方々にご参加頂きました。

また、今回の計画改定では、区内8圏域で開かれた区民ミーティングや地域で福祉活動を実践している多くの団体にヒアリングした内容を反映し、また新たに多文化共生や区内企業の社会貢献活動の視点を取り入れ、今日的な福祉課題への取り組みも強化しています。

そして今後、豊島区の地域福祉活動の拠点となる「区民ひろばの活用に関する要望書」も田中幸一郎豊島区民社協会長との連名で提出いたしました。

今回の計画改定にあたり、熱心にご議論をいただいた、「地域福祉活動計画推進委員会」の皆様、ご意見を寄せられた区民の皆様に心より感謝申し上げますとともに、豊島区の地域福祉の推進が全国のモデルケースとなるよう、大いに期待をもって注目しています。

(平成30年3月)

